

復旧・復興事例

① グループ補助金の活用事例

地獄温泉 青風荘（熊本県南阿蘇村）

○古くから湯治場として栄え、200年以上を経た今も人々に愛され続ける温泉旅館。

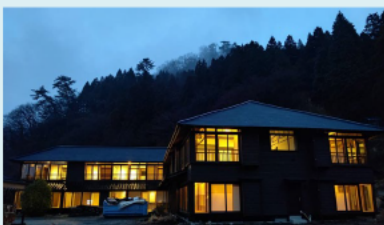
○熊本地震後の土石流により、明治時代からの佇まいを備えた建物など全体の8割が壊滅的な被害を受けた。グループ補助金の他クラウドファンディングも活用し、奇跡的に被害を逃れた地獄温泉のシンボル「すずめの湯」から再生を開始し、令和元年4月に復活。令和元年11月に元の湯、たまごの湯が、令和2年5月にはレストラン、フロント棟が、9月には宿泊棟がオープンし、最後の本館が令和3年4月にオープンし復旧が完了。これからの200年を考え、従来の良きものは残しつつ、インバウンド需要を取り込むためのより魅力ある事業を展開し、これからも阿蘇地域を先導。



男女別で入れる内湯（左）と露天風呂（右奥）



湯浴み着を着て老若男女 誰しもが楽しめる露天風呂



発災から5年を経て令和3年4月に復旧の本館

共和観光（株） 城見櫓（熊本県熊本市）

○加藤清正公が城外に設けた庭園付きの広大な屋敷「花畑御殿」の地にて、熊本城を一望できる立地が自慢の日本料理店。宴会からウエディング、会議まで記憶に残る大切な一日をおもてなしで演出。

○熊本地震後、地域が元気を取り戻すためにはいち早い再開が重要と考え、最低限の修繕ののち営業を再開。その後、安全・安心のもと、末永く地域に根ざした営業を継続するべく検討した結果、店舗の建替えを決定し、熊本地震から5年目となる4月14日にリニューアルオープン。更なる賑わいの創出に向け、屋外空間を利用したウエディング事業を開始。復旧が進む熊本城とともに今後も歩みを進めていく。



建屋外観



屋上や宴会場からは熊本城を一望



新たなウエディング事業

① グループ補助金の活用事例

(株) お菓子の香梅 (熊本県西原村)

○昭和24年(1949年)創業、銘菓「誉の陣太鼓」をはじめ熊本を代表する菓子製造会社。昭和59年には豊かな阿蘇の伏流水を求めて阿蘇西原に工場を移転し、生産を拡大。

○しかし、当工場は、熊本地震の震源地に近く、同社の心臓部でもある製餡所や、「誉の陣太鼓」、「武者がえし」の生産ラインがある工場建屋及び設備が大規模に被災。

○このため、グループ補助金を活用し、同敷地内に建替え。新工場では衛生管理を徹底。また、より一層の地域貢献に取り組むため、お菓子づくりが体験できるスペースの設置や工場の見学エリア拡充を実施。

○同社は、復興事業計画のグループ代表企業として地域の速やかな復興の実現に貢献するとともに、従業員の労働環境を見直しながら地域一番店を目指している。



新工場建屋



新生産ライン



誉の陣太鼓(上)と
武者がえし(下)

(株) オーケーフーズ (熊本県菊陽町)

○嘉永3年(1850年)創業。5代に渡り、豆腐関連商品の製造・卸を営む老舗豆腐店。

○地震により、工場の製造ラインが一部損傷するとともに、売上が激減。取引継続のため、損傷した製造ラインを使い続けた結果、原材料の約1割が製造途中で地面に落下してしまう状況であったところ、グループ補助金を活用し、製造ラインを修繕。

○また、経営改善に向けて、商工会と熊本県よろず支援拠点を活用し、価格帯の見直しや新商品開発を実施。その結果、業務用絞り豆腐やスーパーマーケット向けのプライベートブランド商品などを開発でき、粗利益率が増加、事業のV字回復を果たし、地域の復興を先導した。



修繕に取り組んだ製造ライン



新しく開発した商品

① グループ補助金の活用事例

金剛（株）（熊本県嘉島町）

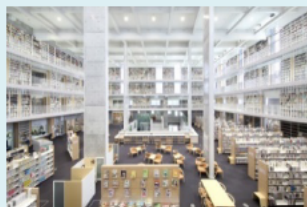
○昭和22年（1947年）創業。図書館や文化施設といった公共性の高い施設への各種収納設備の開発等を実施。

○地震後10日間工場を停止させたが、納入先への調整や出荷製品の作り直しなどを、九州内や関西の協力工場の支援を得て対応。一方で、塗装工程設備の損壊への修理も検討したが、敷地内での復旧が難しかったため、嘉島町への移転を行い、平成30年3月に新工場が竣工。

○新工場は、生産性向上を目指したI o T化により、オーダーメイド型の多品種少ロット生産による省人化工場へと変革。お客様の要望にあわせた作り込みにより、新たな市場をターゲットとしたものづくりを推進するとともに、地域ものづくり企業との一層の連携強化を進めている。



新工場の外観



納入商品の事例



新導入のロボットシステム

（株）熊防メタル（熊本県熊本市）

○昭和8年（1933年）創業。半導体や自動車部品等の表面処理加工を実施。

○熊本地震では、建物や設備の損壊等が発生。社内では“負けんばい！熊防メタル”をスローガンに掲げ一致団結し、昼夜を問わず復旧に取り組んだ。損傷した建物や設備については、グループ補助金を活用し、早期復旧を実現するとともに、I o Tに対応した様々な表面処理を可能にする国内最大級の生産ラインを導入。B C P策定に加え、団結力の強化と定期的な訓練も実施しており、B C Pや防災意識に関する社外での講演も行っている。



復旧後の工場



震災後に導入したI o Tシステム

② 小規模事業者持続化補助金（熊本地震型）活用事例

近藤製飴本舗（熊本県熊本市）

○大正13年（1924年）創業の老舗の飴、アイスクャンデー、唐揚げの製造販売店。

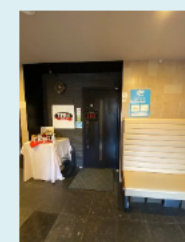
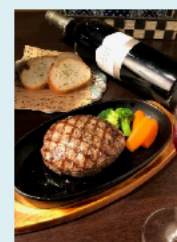
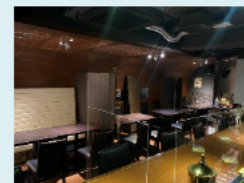
○熊本地震で店舗・工場が全壊。店舗営業が困難となったため、新事業として、熊本県産の「丸重ミート」を使用した唐揚げのキッチンカーでの移動販売を実施。令和元年7月から店舗営業も再開し、売上は被災前よりも拡大。



Restaurant&Bar TERU（熊本県熊本市）

○熊本県内の飲食店。熊本地震で被災し店舗移転を余儀なくされ、4ヶ月間休業。

○新店舗での設備（空調機器、店内照明(LED)導入や、新店舗での顧客獲得のための広告宣伝(DM発送、HP作成)等を実施。
○現在は、安定した経営を行っている。



（有）アストラル研究所（熊本県南阿蘇村）

○南阿蘇村のプラネタリウムを楽しめることが特徴のペンションの経営等を行う。



○熊本地震にて南阿蘇地域の交通網が遮断されたことで、顧客が激減。交通インフラ復旧後の売上回復・拡大のため、最新機種 of プラネタリウム設備の導入等を行った。令和元年度には、売上は被災前よりも拡大。新たに導入したプラネタリウムも好評を得ている。



（資）井手商店（熊本県南阿蘇村）

○酒類やギフト等の卸・小売店。熊本地震で取引先の旅館等が休業・廃業となり取引がなくなったほか、観光客減少により店舗の売上げも減少。

○交通網遮断により不自由な生活を強いられている地元住民を顧客ターゲットとし、食料品や農産品目の販売を開始。
○現在は、被災前と同程度の売上に回復。



③ 商店街震災復旧等事業の活用事例

健軍町商店街（熊本県熊本市）：ハード事業

○同商店街は市内を走る市電が昭和20年に健軍まで延伸されたことを契機に市東部地区発展の起点に。消費者のライフスタイルが変わる中、地震前より地域密着したモデルとなる商店街を目指し活動。

○しかしながら、地震によりアーケードや核店舗、そして個人営業の店舗の多くが大きな被害に遭い、一時は機能マヒの状況に陥った。危機に対峙するため復興委員会を立ち上げ、商店街震災復旧事業を活用し、行政や支援機関と連携しながら復旧復興を進めた。



被災したアーケード



改修されたアーケード

馬見原商店街（熊本県山都町）：ソフト事業

○450余年の歴史を持つ山都町の「馬見原火伏地蔵祭」。ここ数十年は地域による作り物も減少傾向であったところに地震の発生と豪雨による土砂災害もあり、イベントの開催そのものが危惧された。

○地元の商店街では、こんな時だからこそ開催すべきとして、商店街にぎわい創出事業を活用。山都町や商工会支所と連携し、被災した益城町等の住民を無料でイベントに招待するなど大きな連携も取りつつ、裸神輿や花火大会などの実施により地域住民との交流やにぎわい創出につなげた。



「火伏地蔵祭」のステージイベント
(大阿蘇蘇陽太鼓)